



2025



WEB説明会

●日程

第1回 6/19 THU

第2回 7/15 TUE

●時間

19:00~20:00

●参加者

学年問わず誰でも参加可能

●申し込み方法

第1回URL・QRコード

<https://forms.gle/7hBSJPe26Sr2CXEXA>



第2回URL・QRコード

<https://forms.gle/pFLNz5HGCh5wTUay7>



広島大学病院

PT・OT・ST

レジデントWEB説明会

理学療法士レジデント制度

目標：基本的な理学療法を多職種と協力し実践できる療法士

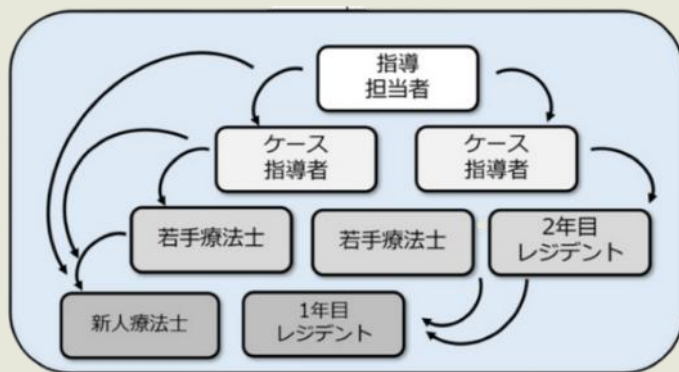
屋根瓦式教育

研修内容はON-THE-JOB TRAINING（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）を基本とし、診療チーム内の教育は図で示すように進めていきます。

レジデント



メンター



研修スケジュール

- 1年目：周術期や内部障害、集中治療領域から学び、急性期病院において求められるリスク管理・臨床思考過程を習得し標準的な理学療法を実施する基盤を身に付けます。
- 2年目：より専門性の高い領域を経験することに加え、外部施設での地域研修を行います。

毎月症例検討会を実施し、学習内容のフィードバックを受け、臨床推論・課題解決能力を向上します。

基礎 1ヶ月	1週間 術期	1ヶ月 集中治療	循環器 3ヶ月	運動器 3ヶ月	中枢神経 3ヶ月	呼吸器 1.5ヶ月	1ヶ月 地域	その他 適宜 がん、脊損、スポーツ、熱傷、小児、切 断、集中治療	全疾患
1年目							2年目		

地域研修の様子



症例検討会の様子



先輩レジデントの声

1年目レジデントより

疾患別研修を通して多種多様な疾患について集中的に学ぶことができる。また、症例検討会や先輩療法士との併診の機会があり、科学的な思考力・判断力・臨床推論の構築力が鍛えられる。



2年目レジデントより

各領域の専門性の高い療法士がいる環境で疾患別研修が実践できる。レジデント制度を通して今後のキャリアに大きく影響を与える有意義な2年間を過ごすことができると思う。

作業療法士レジデント制度

目的

次世代のリーダーとなる作業療法士の養成
高度急性期医療に対応でき、地域生活を見据えた
実践ができる作業療法士の育成

目指すOT像

多面的に考え、主体的に問題解決を
図ることができる
対象者の希望の実現のために粘り強く考え抜き、
諦めずに行動できる

当院ではMTDLPを基本的な考え方としていきます

2年間を通して「作業療法の考え方の型」を身につけることを目指します

研修プログラム

① 疾患別ローテーション研修プログラム



1年目では基本的な作業療法実践の研修とOJTを中心に経験し、
リスク管理や臨床思考過程を習得します。
2年目では精神科や超急性期の実践に加え、地域研修を通じて
超急性期から地域生活を見据えた視点を身に着けます。



② 他職種協働教育(IPE)プログラム

院内外での多職種と連携を取りながら、
患者さんの生活に対する包括的支援を実践します。



③ 地域連携プログラム(地域研修)

高度急性期病院での経験だけでなく、
在宅支援や就労支援など地域の幅広い視点を学ぶことで、
地域包括ケアシステムの中での医療機関の位置づけや役割、
地域の社会資源の活用について理解することを目的に
行います。



ご参加お待ちしております！

2025
新設

言語聴覚士レジデント制度

目的

- ・社会人・医療人としてふさわしい豊かな人間性を有した言語聴覚士の育成
- ・対象児・者の病態を理解し、コミュニケーションや摂食嚥下に関するいかなる問題にも対応できる療法士の育成

目指すST像

- ・幅広い分野における知識・技術を習得し、探求し続けられるST
- ・問題解決のために前に踏み出す力を持ったST
- ・確かな専門性を持ち、チームで働く力を兼ね備えたST

研修スケジュール

- 1年目：当院で実施している基本的な言語聴覚療法ならびに耳鼻科外来検査業務を経験。
研修とOJTを中心に、経験し、リスク管理や臨床思考過程及び耳鼻科検査手技の習得を目指します。
- 2年目：1年目での臨床思考過程を礎とし、目標患者数リストを元に患者診療を行います。
ICUなどクリティカル領域のハイリスク患者の嚥下評価、更には地域研修を通じて超急性期から地域生活を見据えた視点を身につけていきます。
外来では人工内耳・小児症例（機能性構音障害）のサブ担当を担ってもらいます。

入院	脳神経内科・脳神経外科	呼吸器・循環器	がん・超急性期	地域研修	全疾患
外来	嚥下評価・音声外来	聴力検査・補聴器・人工内耳	嚥下評価・小児	地域研修	選択
1年目			2年目		

研修の特徴

①多領域・多疾患の経験

言語聴覚士として携わる事のできるほぼ全ての領域を経験する事ができます。また、WADAテストや覚醒下手術、人工内耳手術の術中補助などの特殊業務も経験する事ができます。
様々な疾患を計画的に経験（2年で120例を目標に設定）

②嚥下評価

年間500件以上の嚥下評価(VE/VF)に加えスクリーニング評価等も多く行う事で、嚥下機能評価の能力向上を目指します。

③摂食嚥下支援チーム

摂食嚥下支援チームでは医師や歯科医師、看護師等の他職種協働のチーム活動を通して他職種連携の学びます。



ご参加お待ちしております！



病院見学 随時受け付け！

〒734-8551 広島市南区霞1-2-3
広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門
部門長 平田和彦

以下のURL問い合わせフォームよりお願いします。
<https://reha.hiroshima-u.ac.jp/kensyu1.html>

2011年
広島大学病院で全国初の
レジデント研修生制度が発足

成長し続け、
次世代のリーダーとなる
療法士の育成をめざします



広島大学